【手術部用】 針 刺 し ・ 切 創 報 告 書

1.		性別 男 女	年齢	歳 職員番号(ID)		
		所属勤務場所での年数	Ι:	年 実務(経験)年数	:	年
	住所:					
2.	発生日:*西暦					
		時	分			
		時	分			
		·····································	分			
			.,			
3.	受傷した手術・診療科は?					
	□ 消化器外科	□脳神経外科	□ その他 (記載)
	□ 心臓血管外科	□形成外科				•
	□ 産科	□泌尿器科				
	─	□ 歯科/口腔外科				
	□ 整形外科	□眼科				
	□ 耳鼻咽喉科	□呼吸器外科				
_		_				
За	緊急処置時(蘇生時を含む)の受傷でした;	יינ :				
	□ はい □ いいえ					
4.	受傷時の術式は?					
	(記載)					
4a)	受傷したのは内視鏡/腹腔鏡を使用する手	術でしたか?				
	□ はい □ いいえ	□不明				
	MAN TIE / 4 _ 1 2 1 1 (L.)					
5.	職種(1つだけチェック)					
	□ a.手術医(術者:受傷時にメインで処置	を実施した者)	□ 外廻り看護師	Λ RL ₹ =# 6T		
	□ b.手術医(指導医)		□ 器械出し/直接な			,
	□ 手術医(助手))看護師(役割記載)
	□ 手術医(初期・後期含む研修医)		□看護学生			
	□ 麻酔医(指導医)		□臨床工学技士			
	□ 麻酔医(初期・後期含む研修医)	(エヨナイ …ち)	□ 清掃担当者			`
	□ 医学生ーどの科を廻っていましたか?		□ その他 (記載			•
	□ 外科系 □ 麻酔科	□ その他 (記載)			
6.	受傷は麻酔業務時に発生しましたか?					
	□ はい→どのような麻酔業務が行われて	こいましたか?				
	(記載)			
	□ いいえ					
7.	発生場所					
	□ 術前待機室	□麻酔台・カート				
	□ メーヨー台	□ 手術台(患者への)	穿刺場面•静脈内投与	まなど)		
	□ 器械台	□手術室の床				
	□ バックテーブル	□器材室				
	□ 手術部位	□ 術後麻酔回復室				
	□ 手術部位のそば	□標本整理室				
	□ 麻酔器	□その他(記載)	

8.	患者の確定	患者ID番号						
	曝露源の患者が誰かわかっていますか?	患者氏名						
	☐ l‡l\ ——————————————————————————————————	病名						
		患者の検査結果	: 陽性		陰性	未検査		
	□ いいえ	HIV						
	□ 適切な回答なし(患者への使用前など)	HCV						
		HBs抗原						
		HBs抗体						
		HBe抗原						
		梅毒						
		ATLA(HTLV-1)						
		その他(
9.	使用目的一鋭利器材はどのような目的で使用されていましたか? 筋肉・皮下注射またはその他の皮膚を穿刺した注射(シリンジ 末梢静脈の血管確保(IVカテーテル・翼状針などで) IVラインへの接続 (間欠投与、ビギーバッグ、 ラインからの側注、その他のライン接続)) 【縫合】 □筋肉/筋膜の縫	•	(縫合部位記載))	
	□ インジェクションサイトやポートへの注射		□その他の組織の	-)	
	□ 動脈ラインの確保		□ 縫合用途不明		(縫合部位記載)	
	□ 中心静脈ラインの確保		□ 電気メスによるも	切開			<u> </u>	
	□ その他の非血管カテーテルの留置		□ ドリルでの穴開け/鋸引き切断					
	(ドレーン留置時の挿入用針など)		□ 組織/骨の牽引					
	□ 静脈採血(下記をチェック)		□ ワイヤ固定/その他の方法による固定					
			1 □ 患者に対してではない目的で器具を使用(標本を切るなど)					
	□ 動脈採血(下記をチェック)		□ 検体や薬剤/標本などを入れる(ガラス製品など)					
		」ルートからの採血				5 = 7		
	□ 体液·組織サンプルの採取		□ その他(記載)	
	(尿・脳脊髄液・羊水・その他の体液、	□ 不明						
	□ 外科的に切る操作(電気メス以外)		_					

8.

10.	事例発生状況ーどのような状況で針刺し・切創が生じましたか?(1つだけチェック)
	□ 器具を使用する前(器具が壊れた/滑った、組み立てる際など)
	□ 器具の使用中(器具が滑った、患者や同僚が器具を動かした、など)
	□ 術野の組織を手で牽引しているとき
	□ 器具を手渡ししている時
	□ ハンズフリー(中間ゾーンを設けることで器具の手渡しを制限)で器具を受け取りしている時
	□ 注射の追加投与の操作の合間
	□ 器材の使用と使用との合間
	□ 器材や装置の分解中
	□ 器具の分別、または消毒・滅菌過程
	□ 使用後の針をリキャップ時
	□ ゴム部分やIVポートなどから針を引き抜く時
	□ その他器具を使用後廃棄するまでの間(廃棄ボックスに移動中、片付け中、ベッド上・床・その他不適切な場所での放置)
	□ 廃棄ボックスの上や、その近くに放置されていた器具で
	□ 器具を廃棄ボックスに入れる時
	□ 廃棄ボックスの投入口からはみ出していた器具で
	□ 廃棄ボックスの投入口以外から突き出ていた器具で
	□ ゴミ袋や不適切な容器から突き出ていた廃棄後の器具
	□ その他(記載
11.	器材の所持者-受傷したとき、原因器材は誰が持っていましたか?(1つだけチェック)
	□ 他の人が持っていた □ 受傷した本人が持っていた
	□ 誰も持っていなかった
12.	器材の汚染-器材は血液・体液などで汚染されていましたか?(1つだけチェック)
	□ 見える程度の血液などが付いていた
	□ 血液などに接触したが、受傷時には見える程度の血液などは付いていなかった(付着の程度が確認できなかった場合を含む)
	□ 血液などで汚染されていなかった
	汚染されていたかどうか不明

13. 原因器材の種類は?(1つだけチェック)

※1~29の針(中空針)の場合、ゲージ数をお答えください。	
□ インシュリン用 □ ツベルクリン用 □ 24/25ゲージ □ 23ゲージ	22ゲージ
21ゲージ	その他 <u>(記載</u>)
□ 使い捨て注射器の針(普通の注射針、ツ反・インスリン用注射針等)	鑷子、鉗子類(ヘモスタット/クランプ)
□ 最初から薬剤が充填されている注射器の針	はさみ(剪刃)
□ 翼状針および点滴セットと一体となった翼状針	a.電気メス(針先)
□ 末梢静脈留置カテーテルの針	b.電気メス(刃先)
□ 真空採血セットの針	c.電気メス(ループ)
□ 縫合針(針サイズ、a、bの詳細もチェック)	レトラクター、スキンフック、ボーンフック
縫合針サイズ 🗌 マイクロ、小型の針(針の大きさが15mm以下)	ステーブル/金属縫合糸
 □ 中型の針(針の大きさが16mm~30mm)	ワイヤ(縫合/固定/ガイドワイヤ)
□ 大型の針(針の大きさが31mm以上)	ピン(固定/ガイドピン)
a.原因器材はどのタイプの縫合針でしたか?	ドリルビット/バー
□ 丸針(下記をチェック)	鼓膜カテーテル誘導針
□ 弾機針/バネ針 □ 針付縫合糸	その他の血管用カテーテルの針
□ 角針(ヘラ型針など)(下記をチェック)	(心臓カテーテル等)
□ 弾機針/バネ針 □ 針付縫合糸	その他の非血管用カテーテルの針
□ 鈍針	(ドレーン留置時の挿入用針、眼科用等)
□ その他 (記載)	ヒューバー針
□ 不明(わからない)	プラスチック製ピペット
b.下記のどの段階で縫合針による受傷をしましたか?	骨切りメス
□ 自分で縫合時	骨片
□ 縫合の介助時など(他者が縫合時)	布鉗子
□渡す時	マイクロトームの刃
□ 受け取る時	トロッカー(套菅針)
□ 持針器での縫合針の角度調整や糸掛けなどの操作中	プラスチック製の吸引チューブ
□ メーヨー台などに置いてある縫合針で	プラスチック製の検体容器・試験管
□ ニードルカウンター使用時	指の爪、歯
□ 糸結び時	薬液アンプル
□ メーヨー台や術野などから落ちてきた針で	薬液バイアル
□ 床に落ちていた針で	薬液ビン
□ その他 (記載)	ピペット(ガラス)
□ 再生使用する外科用メス(替え刃を含む)	吸引菅(ガラス)
◯ ディスポーザブル外科用メス	標本ビン(ガラス)
□ 剃刀、刃	ガラスの毛細管
◯ ランセット(耳介・指・足底からの穿刺採血用)	スライドグラス
□ 血液ガス専用の注射器の針	その他、又は種類のわからない注射器の針
□ 点滴ラインの接続・増設等に用いる針	種類のわからない針
□ ルンバール針または硬膜外針	その他の針 (<u>記載</u>
□ 何も接続されていない注射針	種類のわからない鋭利器材
□ 動脈カテーテル誘導針	その他鋭利器材 (記載
□ 中心静脈カテーテル誘導針	種類のわからないガラス器材
	その他のガラス器材(記載

14.	原因器材が針・鋭利器材だった場合、その器材は安全機構付き器材でしたか? □ はい □ いいえ □ 不明
14a))安全機構の作動の有無は? □ 完全に作動 □ 一部(部分的)作動 □ いいえ □ 不明
14b))受傷は安全機構作動のどの過程で生じましたか? □ 作動前 □ 作動中 □ 作動後 □ 不明
15.	受傷部位(3個までチェック可) 番号記入:
	33
16.	受傷の程度 中程度(皮膚の針刺し、切創、中等量の出血) ま在性(少量の出血) 重傷(深い針刺し・切創、著しい出血)
17.	手袋の着用一手に受傷した場合、受傷時に手袋をしていましたか? □ 一重手袋着用 □ 二重手袋着用 □ 着用していない
18.	受傷者の利き手
19.	HBs抗体-あなた自身はHBs抗体陽性ですか? □ はい(ワクチン接種による) □ はい(自然陽転あるいは既往疾患などによる) □ 不明
20.	受傷にいたるまでの状況を記載してください。(原因に器具の不具合が含まれていた場合も明記して下さい)
21.	(受傷者の方へ)器具が安全機構付き機材で無かった場合、安全機構があれば受傷は防げたと思いますか? □ はい □ いいえ □ 不明
22.	あなたはどのようにすればこの事例を防ぐことができたと思いますか?

		患者	受傷者	予	防治療
	HBs抗原	+	+		
	HCV抗体	+	+		
	HIV抗体	<u> </u>	_ +		
			 	+= 11	
24.	陽性事故発生後の受	受傷者の経過観察結果 ┃1ヵ月後(/)	(受傷者が感染制御部 3ヵ月後(/)	<u>へ報告し、感染制御部</u> ┃6ヵ月後(̄/ ̄)	部で記録) 【12ヵ月後(/)
	HBs抗原	「カカ後(/)		0万人(人)	12月1日(
	HCV抗体				
	HIV抗体				
					<u> </u>
25.	現認者(受傷した現場	場を直接見た者)がいる	ましたか		
	□ はい	職名	氏名		
	□ いいえ →	報告者(受傷の報告	をした者)の氏名:	職名	氏名
	病院長 殿		報告日:*西暦		
			感染対策マネージ	 ヤー(署名)	-
			看護師長(署名)		
			有吱叫攻(有句)		
			診療科(部)長(署名	名)	

23. 事故発生時の検査結果と対応